



百日咳の報告数は減少傾向 咳が続く場合は早期受診を！

令和元年 9月25日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

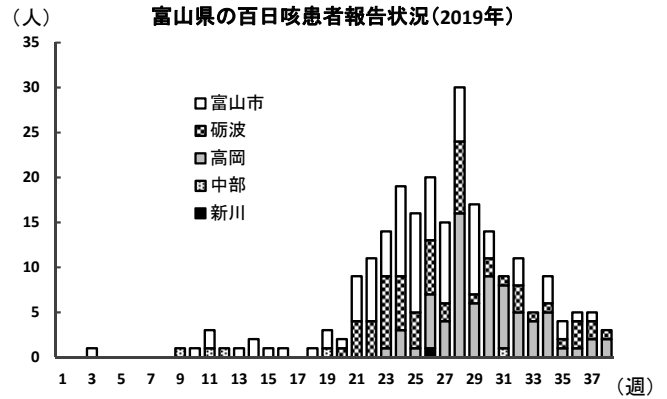
感染症発生動向速報

(令和元年 第38週分・9月16日～9月22日)

《 インフォメーション 》

●百日咳

今年の県内の百日咳患者の報告数は、昨年を引き続き第20週(5月13日～19日)までは週1～3例で推移していましたが、第21週から報告数は急増し、第28週(7月8日～14日)にピークを迎えました。年齢別の報告数では5～9歳が最も多く、次いで10～14歳となっており(右表)、小・中学校の学童を中心とした百日咳流行と考えられました。その後、第31週(7月29日～8月4日)頃から報告数はゆっくりと減少しました(右図)。この減少傾向



は小・中学校が新学期を迎えた第36週(9月2日～8日)以降も続いています。しかしながら、直近の第35～38週時点での報告数は流行発生時以前より多いことから、今後も感染対策の継続が必要です。小児患者の大半は小児期に百日咳ワクチンを4回接種していることから、乳幼児期の定期接種後に就学前までに百日咳抗体が減衰していることが推察されています。また、今回の調査では6ヶ月未満の乳幼児の患者も5例報告されており、5例中3例は3ヶ月未満のワクチン未接種児でした。これらの乳幼児例の推定感染源は、同胞(2例)、親あるいは祖父母(3例)でした。乳幼児の百日咳は重症化しやすいことから、同居する家族からの感染には注意が必要です。

0歳6ヶ月未満	5
0歳6ヶ月～4歳	7
5～9歳	118
10～14歳	86
15～19歳	1
20歳代	2
30歳代	4
40歳代	7
50歳代	2
60歳代	1
80歳代	1
合計	234

感染拡大を防止するには、百日咳を疑う患者の早期の診断、治療が必要です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、咳が続く人はマスクを着用することで感染拡大を防止することが大切です。

《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 3件 (①第37週診断分：20歳代、男性 ②80歳代、男性 ③80歳代、女性)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2件 (①第37週診断分：20歳代、女性、O26,VT1 ②40歳代、女性、O26,VT1)

四類感染症 A型肝炎 1件 (60歳代、男性)

レジオネラ症 3件 (①②共に60歳代、男性、肺炎型 ③70歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 百日咳 3件 (①②共に10歳未満、女性 ③10歳代、女性)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	4.07 (↑)	3.38
2位	RSウイルス感染症	3.10 (↓)	3.52
3位	手足口病	2.52 (↑)	2.21
4位	伝染性紅斑	1.48 (↑)	1.14
5位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90 (↓)	0.93
6位	ヘルパンギーナ	0.72 (↓)	1.21

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（令和元年第38週 令和元年9月16日～令和元年9月22日）

分類	疾患	今週報告分（第38週）					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核			1		1	2	20	11	47	25	38	141
三類感染症	細菌性赤痢								1				1
	腸管出血性大腸菌感染症		1				1		3	6	5	8	22
四類感染症	E型肝炎							3		1			4
	A型肝炎	1					1	2					2
	つつが虫病							1					1
	デング熱											1	1
	レジオネラ症	1				2	3	4		13	8	17	42
五類感染症	アメーバ赤痢											4	4
	ウイルス性肝炎									1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									4	1	3	8
	急性弛緩性麻痺									1			1
	急性脳炎											2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2	3	6	11
	後天性免疫不全症候群											6	6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	2	2	5
	侵襲性肺炎球菌感染症							1		8	8	9	26
	水痘（入院例）							1	2			5	8
	梅毒							1		2	1	14	18
	播種性クリプトコックス症											1	1
	破傷風									1			1
	百日咳			2	1		3	1	5	73	59	96	234
	風しん								1			3	4
	麻しん									1	2		3
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ		5			10	15	1,428	930	3,157	1,692	3,714
			1.00			0.63	0.31						
RSウイルス感染症		5	3	30	17	35	90	30	66	238	97	348	779
		1.25	1.00	3.75	4.25	3.50	3.10						
咽頭結膜熱		3				1	4	170	22	235	50	193	670
		0.75				0.10	0.14						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	2	10	3	10	26	111	119	603	245	1,016	2,094
		0.25	0.67	1.25	0.75	1.00	0.90						
感染性胃腸炎		17	11	27	2	61	118	1,028	827	1,319	474	3,097	6,745
		4.25	3.67	3.38	0.50	6.10	4.07						
水痘					3	2	5	19	19	45	14	239	336
					0.75	0.20	0.17						
手足口病		5	7	7	1	53	73	199	230	1,033	266	1,268	2,996
		1.25	2.33	0.88	0.25	5.30	2.52						
伝染性紅斑			1	7		35	43	123	63	444	120	583	1,333
			0.33	0.88		3.50	1.48						
突発性発しん		1		5	1	10	17	29	33	171	39	158	430
		0.25		0.63	0.25	1.00	0.59						
ヘルパンギーナ		3	1	10	1	6	21	135	105	257	68	251	816
		0.75	0.33	1.25	0.25	0.60	0.72						
流行性耳下腺炎								4	7	8	1	20	40
急性出血性結膜炎											13		13
流行性角結膜炎								1	10	29	28	7	75
細菌性髄膜炎											4	4	
無菌性髄膜炎							2	1			1	4	
マイコプラズマ肺炎			1			1		6	4			10	
			1.00			0.20							
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							1		8	7	2	18	
インフルエンザによる入院患者（*）			1		1	2			1		2	3	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)への集計です。